広　告

花の苗づくりに夢が広がる

「発足ハウス利用組合」は、発足地区8軒の稲作農家が集まって平成11年にスタート。ベコニアを中心に、花の苗38,000鉢を生産しています。「農閑期を利用した農産物生産ができないか」と考えたリーダーの河合徳秋さん（37歳）や小笠原英史さん（33歳）という若い力が引っ張って、地域の稲作農家がまとまりました。「皆、花づくりは初めてだったので、最初はハウスの温度管理や水やりが難しく、満足のいくものが半分ほどしか作れなかった。どこにでも出掛け、花づくりを見て回った」といいます。

今では、毎年12種類40色の立派な花の苗を出荷。厚田公園や厚田区の小中学校、地元のゴルフ場の花壇を彩ります。将来の目標は、「個人でハウスをやる農家が出てきてくれること、また、このハウスで野菜の苗も作ってみたい」。組合の皆さんの目が輝いています。

出荷はパンジーが一番早くて、5月1、2日から。ほかは15日前後。ベコニア、マリーゴールド、ペチュニア、サルビアなど、咲く姿の待ち遠しいポットの苗たちです。

100坪のハウスの中は21度。自分たちの作った花が公園などに咲き誇る姿を楽しみにしながら、汗ばむ陽気の中で作業は黙々と続きます。

問 発足ハウス利用組合事務局 TEL78-2133（小笠原さん）
小売りもしています。1ポット70円程度。

◎石狩随想 01

石狩湾北半周へ誘う

湾の春は種々のサインを送ってくる。波打ち際では日脚も伸び、暖かさを拵えるかのように波光もゆったり広がる。

遠望遥か、石狩川の栄養をたっぷり抱き込み、黄褐色でディスプレー、北緯四十三度型緑青色との鬩ぎ合い、聚富の丘の眺望にあって、この時こそ春刻を感ずる。

旧厚田、浜益、石狩の北ー湾岸漁協は市村に先んじて二〇〇四年合併。魚種三十種を超え、水揚高約十七億円ともなる。食文化街道のエンジンだ。今年も春告の魚介たち、「質」「量」「値」いずれも満足度抜群。朝市・店舗・出店・食堂の品揃えもまた楽しい。

四月一日、新観光協会の船出。地域個性の強調と湾岸文化の継承。最も期待されるは観光資源の活用。もとより市・市民・民間挙げてのチャレンジにこそ評価は上がるもの。

フィッシング・海鮮の食べ歩き・「山道」トレッキングに「林道」ウォーク・マラソンも加わった。

五月ともなれば、山々も、畑の菜も息吹き始める。行動旋律はプロローグから、より本番を迎え人々を誘う。

（市長）